



旧庄屋毛利家住宅で個展を開催中の増本さん(左)と宮本さん

# 木彫と古民家 調和の美

## 宇和島・毛利家住宅

宇和島市三間町是能の市有形文化財「旧庄屋毛利家住宅」で、彫刻家DRILLER MASUMOTO（ドリルーマスモト）として活動する、松山東雲女子大教授の増本達彦さん(55)の作品展が開かれている。築270年を超える古民家と木彫作品6点の調和が楽しめる。入場無料。11日まで。

## 増本さん(松山東雲女子大教授) 個展

で、豆部分から伸びる特徴的な触手が神秘性を表現している。今回の展示に当たり、台座を削り直すなど手を加えた。

増本さんは昨年、同僚の学外授業に同伴し毛利家住宅を初めて訪問。かやぶき屋根やいりりのある家屋に「時代を超えて存在する生き物のよう」と感銘を受け、毛利家史料調査会の宮本春樹さんを通じて個展開催を打診した。

2016〜24年にかけて制作した作品を、母屋内部や縁側に配した。19年制作の「豊穰(ほうじょう)の女神」は、豆とさやから着想を得た作品

## 6点触れて楽しむ

これまで回顧展の開催には消極的だったという増本さんは「作品に手を入れる中で、自分自身の心境の変化を感じることができたのは発見」と語る。展示作品は直接触れることが可能で「作品は生き物。五感を使ってつながってほしい」と話していた。(長尾翼)